

美術科現状の分析と授業改善プラン

美術科における平成 29 年度改善プランの検証

- ・ 美術へ取り組む姿勢は全体的に前向きで充実した授業を行うことができ。また、導入部分で掲示する参考作品や、作家の鑑賞授業を取り入れることで、独自の発想を生む原動力となり、生徒の表現力向上に役立つことができた。技能については授業時ひとりひとり話す機会を設け丁寧な指導をすることにより、着実に力を身に付けている。また、中学校独自の、デザインの理論や構成についての表現も理解を深め楽しく積極的に取り組んでいる。ただし、絵画の分野である正確な描写やデッサン等に苦手意識をもつ生徒が多い。
- ・ 知識として得た技法や分野から、新たな表現方法を研究し、独創的かつ創造力豊かな発想を作品に反映させる能力は一定の成果を得たが、意欲的に取り組むほど、制作に要する時間は増えてしまう。
- ・ 鑑賞において、名画や作家などの生い立ちに関して理解を示す。しかし、自分の価値意識をもって批評し合う時間が少ないので課題解決に向けて取り入れていきたいと考える。

美術科における内容別結果の分析

- ・ 1 学年は、基礎・基本的な内容を指導するため、絵具の使い方や色の基礎知識を学んで構成や要素を組み立てたりする能力、抽象的表現を理解させるための感性を育てていく指導を充実させる必要がある。また正確にモチーフを描写する能力に個人差がある。
- ・ 2～3 年生は、発想の飛躍や独創的な表現が少ない傾向がある。何も無いところからオリジナルの作品や表現を見出すことに自信がなく、自由に表現することに苦手意識をもつ生徒が多く見られる。また構想が決まらずに作業し、どこまで手を加えたらよいか迷い、完成に至らないケースも各学年に共通する課題である。またこだわりをもって制作することで、制作時間が足りなくなる生徒も見受けられる。
- ・ 多様な作品や名作に触れる機会が少なく、柔軟で鋭敏な感受性と、美に対する多様な価値観を明確に表現し、伝える手段や方法を育てる指導を行うことが難しい。

美術科観点別結果の分析

【関心・意欲・態度】

創作活動や自己表現に関しての興味関心は高いが、より高い完成度に対しての意欲と集中力が不十分である。

【発想や構想の能力】

斬新で独創的な発想や、イメージを具体的な形として作品に反映させる能力と技術が必要である。

【創造的な技能】

材料や用具、課題自体のもつ特性を理解し、さらに工夫して表現する基礎的な技術・技能が必要である。また、計画性をもって作業状況を把握し、作品の完成度を高めていく能力も必要である。

【鑑賞の能力】

西洋絵画や日本の伝統工芸など、クイズ形式の授業で行うと興味・関心が湧き、意欲的に発言や取組みが良い。また、お互いの作品の鑑賞時は積極的に他者の作品のよさを味わい自分の表現に取り入れる姿勢が見受けられるので今後も実施していきたいと考える。

美術科の授業改善のポイント

- ・ 基礎的な描写する能力を高めるために、定期的にスケッチやデッサンの授業を取り入れ、絵画に対する苦手意識を克服していく。
- ・ 課題を制作する際にテーマを明確にし、テーマに沿った内容の下書きやレポートなどを活用して事前学習をさせ、個人がスムーズに課題に入れる準備が出来る機会を設ける。
- ・ 既成の観念にとらわれない、新しく、柔軟な発想力を認め、個々の生徒に自信を持たせる。また、授業内でお互いの作品を自分の価値意識をもって批評し合うことで、多様な表現のあり方やその美しさを理解することにより美に対する価値観を育てていく。それをふまえた上で作品に手を加えることを完成の基準とさせる。